

---

# 定期券

加藤邦章

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

定期券

### 【Zマーク】

N7221X

### 【作者名】

加藤邦章

### 【あらすじ】

定期と電子マネーについて思ったこと、ちなみにエッセイ初挑戦です。

10月18日、定期券を電車に乗る以外の使い方をしてみようと  
思い立つた。

今自分の持っている定期券には専用の機械であらかじめ入金をして  
おくことで、財布を出さずとも買い物  
が出来るという事は以前から知っていた。

知つてはいたのだが、いかんせん電子マネーなるものに手を出すの  
は小心者の私にとっては相当の勇気がいるが故、それまでは電車に  
乗るためだけに使つていた。

しかし、定期券を買つてから五ヶ月が経つた10月18日、学校の  
先生から「能動的に生きる。」と言われたのがきっかけで、じやあ  
手始めに何を始めようかと考えた末に電子マネーという結論に至  
った次第である。

一応頑張ってみますが、続きを読むあまり期待しないでください。

最初に立ちはだかる壁は、チャージだった。なにせ今まで経験の無い事だから初めの一歩を踏み出すのは時間がかかった。それでも勇気を出して三千円程チャージし、いざ実践へ向かつた次第だ。学校近くのコンビニで昼飯のパンと飲み物を買うために普段は財布を取り出す所を、その日は電子マネーを使うと決めていた。レジに商品を置いてから定期をパネルに置く、すると店員が何といったか。

「電子マネーを使われる場合は、あらかじめ言ってください。」

そもそも店をでた後、私は電子マネーなど一度と使うかと固く誓った。

## 後編（後書き）

私にとっては続きを投稿出来た事が奇跡です。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7221x/>

---

定期券

2011年12月5日22時49分発行